

## フォーラム・セミナー報告

## FD Caféを開催しました

4月22日(土)、FD Café (新任教員研修)を開催しました。新任教員8名、授業支援グループより事務職員4名、教育推進部より5名、都合17名が参加して、和気藹々とした雰囲気の中で交流を図りました。着任してから二週間ほどしか経過していませんが、この短期間で不安を覚えたり、疑問を感じたりすること、あるいは既にトラブルシューティングによって解決したこと、どのような工夫を施せばさらにより活用ができるかというアイデアなどを共有しました。そのうち、授業に関しては、多人数を対象とした講義や卒業研究の在り方を模索する声が多く寄せられ、教育推進部岩崎准教授がヒントとなるアイデアを複数提示しました。LMSの使用方法についての関心

も高く、こちらについては授業支援グループ竹中氏のインストラクションにしたがい、モバイルPCを使いながら活用の模擬体験をしました。このほか、ルーブリックについての概要説明と学習支援のための諸施設の紹介がなされました。参加者にはアクティブ・ラーニング読本「グループワークの達人」「これからはラーニング・アシスタント」と「ルーブリックの活用ガイド」が手渡され、時間に制約あるために説明や体験が十分にできなかったことについての情報を補うようにしました。こちらについては必要に応じてSummer

日時：2017年4月22日(土)13:00～16:30  
場所：第2学舎2号館C301教室

Caféを開催して、今回、参加できなかった教員にも入店の機会を提供することも考えています。

(教育推進部 三浦真琴)



FD Caféのイントロダクションの様子

## 本年度第1回目のFDフォーラムを開催しました

第17回目のFDフォーラムが2017年4月26日に開催されました。今回は、香港大学の教育学部・David Carless教授に、「大学での優れた授業法を提案する」というタイトルでご講演をいただきました。場所は千里山キャンパス第2学舎のC402教室。本学の教職員はじめ、他大学からも熱心な方々のご参加をいただきました。香港大学はいまでもなく世界ランキングでも上位を占める有名大学で、“Times”の高等教育機関のランキングではアジアで5本指に入っています。Carless教授は、学習者志向の評価(LOA)で世界的にも知られた研究者で、

CTLと同様の機関であるCETL(Center for the Enhancement of Teaching and Learning)でも仕事をされています。

ご講演では、質の高い指導を確保するにはどうするか、という観点から、学生への高い期待を表明し、学生の学習活動とその評価が連携していること、学習の仕方そのものを徐々に質の高いものにさせていくこと、など、7点にわたって紹介がありました。また、ICT活用や反転授業についての言及もあり、通訳の労をおとりいただいた文学

日時：2017年4月26日(水)16:30～18:00  
場所：第2学舎2号館C402教室

部・安藤輝次教授の解説もあいまって、大変有意義な時間を過ごすことができました。

(教育開発支援センター長 田中俊也)



講師のCarless教授

## 教育開発支援センターからのお知らせ

## SD研修プログラムが開始されました！

文部科学省は2017年からSD(スタッフデベロップメント)を義務化しました。スタッフとは、職員だけを指すのではなく、執行部にかかわる教員も含まれ、教職員がともに大学をよりよくするための活動に取り組む必要が出てきました。関西大学はこれまでもSDとして単発のプログラムを提供してまいりましたが、2017年度からは体系的なプログラムを提供するべく全5回の大学教育に関するプログラムを立ち上げました(右記参照)。

本プログラムの特徴は、職員・教員に加えて、学生も参加していることです。大学の主役は学生たちです。学生からの意見を聞くことができるこのSDプログラムはほかの大

学にはなく関西大学ならではの取り組みだといえます。第1回目のプログラムに参加した教員からは「学生はそんな風に考えているのですか、勉強になります」、職員からは「もっとほかの職員にもうけさせたい」といった感

想をいただいております。来年度も継続的に実施していく予定になっていますので、関心のある方はぜひご参加ください!ご希望の回のみ参加も大歓迎です。

(教育推進部 岩崎千晶)

## 【学生・教員・職員三者協働型研修プログラム シラバス】

- 第1回 カリキュラムと大学教育—内部質保証システムの構築とは— (5月19日 担当：森朋子)
- 第2回 教育から学習へ (6月2日 担当：三浦真琴)
- 第3回 教育評価と大学教育 (6月16日 担当：千葉美保子)
- 第4回 ICTと大学教育 (6月30日 担当：山本敏幸)
- 第5回 学習環境と大学教育 (7月14日 担当：岩崎千晶)

# Learning Caféを開催しています

## 第1回 Learning Café (担当: 佐々木知彦 教育開発支援センター研究員)

日時: 2017年5月10日(水) 14:50-15:50  
場所: 凜風館コラボレーションコモンズ 参加者: 6名

今年度も Learning Café が始まりました。Learning Café は、主にアカデミックスキルの基礎を身につけるミニワークショップとして、コラボレーションコモンズにて開催されています。第1回は「文章を読むコツー速読と要約」と題して、文章の全体像を素早く把握する方法を取り上げました。こと読書に関しては一言一句ていねいに読まなければならないと思う学生も多いなか、それは読み方のひとつであり、目的に応じて精読や速読を自分で使い分けることが重

要だということを強調しました。6名の参加者は真剣にワークに取り組んでいましたが、「アットホームな雰囲気でもとても役立つことを教えてもらえた」との声もありました。

春学期は7月まで開催します。プレゼンやグループワークのコツから交渉学まで、多様なテーマで開催しますので、ぜひ学生さんにお勧めください。

(教育開発支援センター 佐々木知彦)



Learning Caféの様子(5月10日)

## 第2回 Learning Café (担当: 千葉美保子 教育推進部特別任命助教)

日時: 2017年5月17日(水) 14:50-15:50  
場所: 凜風館コラボレーションコモンズ 参加者: 8名

第2回 Learning Café では、「『ノートの取り方』悩んでませんか?~明日の講義から使える!大学のノートの取り方~」と題し、高校の授業と大学の講義の違いについて確認した上で、具体例を提示しながらノートの書き方についてのミニレクチャーと模擬講義による体験ワークを実施しました。

新入生を中心に、「ノートを見返すと重要な箇所が分からない」「先生の話すスピードが早すぎて、ついていけない」「ミニッツペーパーに

何を書いたらいいか分からない」など、今まさに悩みを抱えた方が参加されました。

参加者からは、「単にメモするだけでなく、活用する前提でとることが大事だと分かった」「今まであった疑問が解決できました。」や、「これから、今回学んだことを活かして講義中実践してみようと思いました」など、前向きなコメントが寄せられました。

(教育推進部 千葉美保子)



Learning Caféの様子(5月17日)

## ライティングラボが開室されました

ライティングラボ(以下ラボ)では、レポート・論文・レジュメなどアカデミック・ライティングに関する個別相談対応を行っています。学生が授業外で課題等に取り組む時に、ライティング・チューター(大学院生博士後期課程・PD)からアドバイスをもらうことができます。相談対応は千里山キャンパス総合図書館ラーニング・コモンズ、ライティング・エリアで実施しています(2017年5月末時点)。レポート作成などで悩んでいる学生がいたら、ぜひラボをご紹介ください。詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

また、ラボでは授業外でレポートの書き方が学べるミニセミナー「レポートの書き方ワンポイント講座」を開催しています。今後の開催日時やテーマはウェブサイトやポスターに

てお知らせいたします。なお、内容をカスタマイズした出前授業も承っています。ご担当されている授業内で、レポートの書き方などに関するレクチャーをご希望の先生はラボまでご相談ください。

その他、ラボの利用案内パンフレットとレポートの書き方に関する自習用教材冊子「レポートの書き方ガイド」を、第2学舎1号館教育開発支援センターおよび上記ライティング・エリアで配布しています。学生への配布などでまとまった数をご希望の際はラボまでご連絡ください。

(ライティングラボ アカデミック・アドヴァイザー/教育開発支援センター研究員 多田泰紘)



ライティング・エリア



個別相談対応の様子

問い合わせ先(出前授業の依頼・資料や冊子の請求)  
関西大学ライティングラボ(教育開発支援センター内)  
URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/index.html>  
Mail: [wlabo@ml.kandai.jp](mailto:wlabo@ml.kandai.jp) 担当: 多田(内線3801)

## From CTL事務局

「大学は教育機関ですか?研究機関ですか?」-人事部門の研修担当者が私たち事務職員内定者に、ちょっと意地悪な質問を投げかけました。時は1980年代後半、当時といえば、近い将来訪れる18歳人口の激減という問題に、各大学が危機感を高めていた頃。本学の将来を担うべき私たちの自覚を促そうとするこの問いかけに対し、まだ学生の立場にあった私の返答は「学生のために教育の充実を優先すべき(教育機関)」でありました。

…あの教育への熱い思いに反して、入職以来、教務部門の仕事とご縁のなかった私が、4月からCTLの一員として仕事に携わることになりました。20数年間、教育現場から離れていた私にとって、SAやTAが教職員と協働して授業や学生を支援する姿も、教職員と学生が共に学ぶ光景も全てが新鮮に映ります。これらを含め、当時自分の中で「教育の充実」という抽象的な言葉でしか表せなかった「何か」が形となり、教育から学習へとシフトした具体的なプログラムが展開されていることに驚きと感動の毎日です。

CTL着任と教育プロジェクトへの参画は、改めて私に大学教育のあり方を考える機会を与えてくれました。時代は変わり、大学を取り巻く環境は大きく変化しましたが、今も「学び」への興味は、受験生が大学選択において最も重視する要件であり、在学生在が関西大学での「学び」に大きな期待を寄せていることに変わりはありません。CTLで推進する取組みが全学に浸透し、より多くの授業でその考えや手法が活用されることを目標に、そして、「なにより学生のため」という入職前の純粋な気持ちを忘れず業務に取り組む所存です。(一)